

# 熊毛の社会教育

平成二十九年二月発行  
熊毛地区社会教育振興会

## ＜熊毛地区社会教育主要事業実績＞

月	日	曜	事業名	会場	参加者数
5	28	土	地区子ども会指導者・育成者研修会 地区子ども会安全教育研修会	西之表市民体育館	66人
6	10	金	地区人権教育ブロック別指導者研修会 地区社会教育指導者研修会(PTA・女性・高齢者団体)	南種子町中央公民館	69人
6	25	土	地区社会教育指導者研修会(青年団体)(~26日)	中種子町中央公民館 他	39人
7	7	木	地区文化財保護審議会委員等研修会	種子島こりーな	33人
7	26	火	地区子ども会大会・創作活動(~27日)	南種子町自然の家 他	46人
11	7	月	地区社会教育委員等研修会 地区自治公民館経営研究会	屋久島離島開発総合センター	29人 43人
11	26	土	県PTA活動研究委嘱公開	屋久島町立安房中学校	314人
12	3	土	地区子ども会ジュニア・リーダー養成研修	屋久島町宮之浦体育館 他	55人

熊毛地区社会教育振興会では、地域、家庭、学校、行政、関係機関等の連携が更に深まり、熊毛地区の社会教育がますます充実・発展することを願ってリーフレット「熊毛の社会教育」を作成しています。

一・二ページには、地区主要行事を、三・六ページには、一市三町の特色ある事業等を掲載してあります。

ぜひ御一読いただき、本地区の社会教育のさらなる充実・発展に御理解と御協力をお願いいたします。

### 指導者・育成者研修会 子ども会安全教育研修会

平成二十八年五月二十八日(土)  
西之表市民体育館(六十六人)

指導者・育成者研修会では、子どもたちが主体的に活動するための指導者や育成者の役割等について学びました。子ども会リーダーによる安全教育研修会では、KYTの演習を通して、活動中の危険を予知し、回避するトレーニングを行いました。

また、合同で熊毛地区消防組合職員から正しい応急処置の方法を学んだり、種子島レオクラブの高校生から楽しいレクリエーションを紹介していただいたりしました。

地区子ども会育成連絡協議会では、一子どもたちがつくる子ども会活動を積極的に推進しようというテーマに活動しています。

子どもの自由な発想や意見を生かして、子どもたち自身を積極的に企画や運営に参加させる取組の推進をお願いします。



### 社会教育指導者研修会

PTA・女性団体・高齢者団体  
(人権教育ブロック別指導者研修会)

平成二十八年六月十日(金)  
南種子町中央公民館(六十九人)

種子島地区のPTA及び女性団体・高齢者団体が、人権や各団体の活動の充実をテーマに合同研修を行いました。人権教育では、県教育庁人権同和教育課指導主事に「人権が尊重される社会づくりに向けて」というテーマで指導していただきました。参加型学習の進め方や同和問題をはじめとする様々な人権課題についての認識を深めることができ、心が豊かになるのを実感できる時間でした。



その後、各団体の運営や活動のあり方についての講義、レクリエーションの実技、グループ協議での意見交換等を行い、各団体の活動の活性化や団体間の連携について研修を行いました。

### 青年団体

平成二十八年六月二十五日(土)・二十六日(日)  
中種子町中央公民館 他(三十九人)

種子島地区三市町の青年団が一堂に会して、一泊二日の宿泊研修を行いました。

「バルーンアート製作」では、南九



州市教育委員会社会教育指導員の指導により、悪戦苦闘しながらも「膨らませる、ひねる、組み合わせる」などのテクニクを駆使して、かわいい犬の作品を完成させました。

また、ワークショップ「ワールド・

カフェ」や夕食のパーベキユーを囲んだの情報交換会では、若者らしく深刺とした意見交換や交流を行うことができました。

全国的に青年団の衰退が課題となつていますが、地区内の青年団は、地域おこしや仲間づくりなどに懸命に取り組んでいます。青年団の皆さんにエネルギーを送ると同時に、さらなる活躍を期待したいと思います。

### 子ども会大会・創作活動

平成二十八年七月二十六日(土)・二十七日(水)  
南種子町自然の家 他(四十六人)

各市町の子ども会リーダーが集い、体験活動や創作活動を通して、子どもたちがつくる子ども会活動のあり方やリーダーとしての心構えを学びました。

各市町の代表者が活動発表を行い、KYTや意見交換を通して、安全で楽しい子ども会活動のあり方について学びました。また、野外炊飯では、カレーライスづくりに挑戦。自分たちで役割分担を決めて、おいしいカレーライスを作りました。星空観察では、ISS(国際宇宙ステーション)の発見もあり、感動的な体験をすることができました。

### 二日目

創作活動では、「ロケットペーパーラフト」に挑戦しました。細かな作業に苦勞しながらも友達と協力して完成させることができました。

「親任せにせず、私たちが子どもの意見



を大切にしたい活動をした。という感想もあり、研修の成果を今後の活動に生かしてほしいと思います。

子ども会ジュニア・リーダー養成研修

平成二十八年十二月三日(土) 屋久島町宮之浦体育館 他(五十五人) 熊毛地区内のジュニア・リーダーや高校生クラブ会員が集い、研修や交流活動を行いました。

レクリエーションの研修では、県レクリエーション協会の指導を受け、レクリエーションの進め方や留意点、実技について学習しました。

また、各団体の活動発表や「しゃべり場」では、若者らしく活気のある意見交換を行い、他の団体の活動から多くのことを学ぶことができました。

地域における自分たちの役割について考え、リーダーとして活躍する中・高校生を育成することを目的にしています。



文化財保護審議会委員等研修会

平成二十八年七月七日(木) 種子島こりーな(三十三人) 文化財保護行政について、県文化財課担当者の講話の後、屋久島町の委員から「屋久島町立歴史民俗資料館の取組」について事例発表がありました。

資料館のリニューアルに伴い、テーマを屋久島の歴史と民俗に特化したこと、メイインターゲットを小学生に設定して展示内容を分かりやすくしたこと、土器製作や火起こし、民具を使った体

験型学習を充実させたことなどの報告がありました。

また、現地研修視察では、国指定天然記念物の「種子島阿嶽川のマンガローブ林」や国重要文化財の「古市家住宅」を見学しました。独自の豊かな自然や文化を形成していった様子やこれらの活用などについて研修しました。

今後の各市町文化財保護行政の推進・充実と文化財保護思想の普及・啓発に生かしていただきたいと思います。

社会教育委員等研修会 自治公民館経営研究会

講演

平成二十八年十一月七日(月) 屋久島離島開発総合センター(七十二人) NPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会の東川隆太郎代表理事を講師に迎え、「熊毛地域の魅力とこれからのまちづくり」を演題に御講演をいただきました。



熊毛地域独特の食や生活、神社様式など、新たな視点から郷土の魅力に気付くことができました。

社会教育委員等研修会

「地域コミュニティの構築と社会教育委員の役割」をテーマに、西之表市古田地区公民館長が、「結の里事業への取組」について事例発表を行いました。研究協議では、地域ぐるみでの多世

代交流活動のあり方などについて熱心な意見交換が行われました。

自治公民館経営研究会

「地域住民のコミュニティとしての公民館の役割」をテーマに、屋久島町原公民館長が、集落公民館の利活用を核とした住民のコミュニケーションづくりについて事例発表を行いました。

中青年を対象とした健康教室や隣保班による例大祭の余興への取組など、地域住民一人一人を大切に活動は、他の公民館の運営に参考になるものでした。

県PTA活動研究委嘱公開

平成二十八年十一月二十六日(土) 屋久島町立安房中学校(三百十四人) 安房中学校を会場に多くのPTA・地域・学校関係者を迎え、盛大に開催されました。



安房中学校PTA研究テーマ「郷土を愛し、たくましく生きる安房の子を育むPTA活動はどうあればよいか」についての研究発表をもとに、郷土愛を育てるための教育活動のあり方等について協議しました。

郷土の豊かな教育資源の活用、地域や三つの卒業生保護者会、隣接する小・中学校との連携など、地域ぐるみで協働して子育てを行う環境づくりが行われており、参加者にとっても参考になる取組が紹介されました。

また、NPO法人子育てふれあいグループ自然花の大脇治樹理事長から「子育てのゴールは、子どもの自立」の演題で御講演をいただき、子育てやその

支援について理解を深めることができました。

参加者にとっては、PTA活動や家庭教育の在り方等について、改めて見直す良い機会になったことと思います。

受賞おめでとうございます

平成二十八年年度各種表彰 ※敬称略

◆日本PTA全国協議会表彰

納官小学校PTA (中種子町)

◆県子ども会育成連絡協議会優良育成団体表彰

旭町子ども会育成会 (中種子町)

平内子ども会育成会 (屋久島町)

◆優良少年少女団体及び優良地域高校生クラブ等表彰

たねっこ合唱隊 (中種子町)

◆県文化財助労者表彰

松下 堅一郎 (中種子町)

◆熊毛地区社会教育関係優良団体・個人表彰

【優良団体】

西之表市連合青年団 (西之表市)

ひつとべ (中種子町)

【優良個人】

原口 一美 (西之表市)

大山 勇作 (屋久島町)

◆熊毛地区子ども会育成連絡協議会表彰

平山西之町公民館青少年育成部 (南種子町)

丸田 健次 (西之表市)

【編集・発行】

熊毛地区社会教育振興会事務局

住所 西之表市西之表七五九〇番地 熊毛教育事務所内

電話 (〇九九七) 二二一〇五三五

FAX (〇九九七) 二二一〇五二二

西之表市

# まなびの輪



にしのおもて

ふるさとまなび隊  
充実した活動を目指して

ふるさとまなび隊とは、普段体験できない課外活動を中心とした様々な活動を通して、ふるさとの自然や文化などを学び、また異年齢間で交流することで豊かな人間関係や規範意識、社会性を養うことを目的としている活動です。

隊員は、小学三年生から一般までを対象とし、登録制で年間十回の活動を実施しています。隊員数は、平成二十六年度二十七人、平成二十七年四十六人と年々増加しており、平成二十八年度は、七十四人の活動となりました。過去最多の隊員数となったため、これまで月一回行っていた活動を、午前・午後の二部制で活動したり、月二回に分散したりして活動しました。

## ①「畑は海の友だち」 (農業・ヨット体験)

中割生姜山農園の遠藤氏と、海洋学者でホクレア号の唯一の日本人クルーを務めた内野氏を講師に招いて、畑と海の繋がりを学びました。

午前中は、中割生姜山農園にて農薬を使わない生姜栽培を見学し、近くを流れる川へ土砂や農薬が流れないよう配慮していることを学びました。午後からは、フィールドを海へと移

し、中種子町熊野海水浴場にてサンゴの生態を学びました。畑から流れ込んだ農薬や山を切り開くことで、海へ流れ込んでくる大量の土砂等が海の生態系に大きな影響を及ぼすことを学び、隊員一人一人が自然保護の観点から海を見つめ直す機会となりました。その後は、カヤック・ヨットの乗船体験も実施し、山と海を満喫した一日となりました。



サンゴの生態を学習している様子

## ②種子島の歴史を体験・探検しよう (立山校区道歩き体験)

西之表市立山校区にて、山歩きとウォークラリーを実施しました。

山歩きの際には、前立山校区長の小倉氏に立山の歴史や郷土芸能「おっやくだき」の様子を写真で説明していただきました。またカシミア号漂着の際にシュウゴばあさんが助けを求めて駆け上がったという山道も案内してもらいました。山道は、急な上り坂が続き、隊員たちは息を切らせながら登っていました。

山歩き後のウォークラリーでは、地域おこし協力隊の方々にも協力いただき、各ポイントを回りながら、ソテツの手裏剣作りをしたり、弓矢などの体験活動をしたりしました。

さらに各ポイントで、キーワードを教えてもらい、魔法の言葉で完成させて公民館で唱えると、立山校区の女性団体の皆さんの手作り郷土菓子をもらうことができるというお楽しみ付きウォークラリーで、参加者は大喜びでした。



## 中一ギャップ解消事業 「ともだち大作戦！」開催

八月二日から四日の二泊三日で「中一ギャップ解消」を目的とした「ともだち大作戦！」を実施しました。

大字の小学六年生を対象に募集し、十六人が参加しました。

一日目は、あっぱくらんどで異年齢集団活動も目的の一つとするため、ふるさとまなび隊員とともに計六十人で活動しました。チームに分かれて、自己紹介や旗作りで交流を深め、午後は、西京ダムでカヌー体験やあっぱくらんど散策を実施しました。夕食づくりも高学年がリーダーシップをとり、カレーライスとフルーツ白玉を自分たちで作りました。



弓矢体験の様子

て、国上湊集落のキャンプ場でテント張りや飯盒炊飯等の活動を実施しました。

初めて体験する子どもたちも多く、作業にも手間取る場面もありましたが、次第に結束力を高め、作業を進めることができました。漁船乗船体験も実施していたため、疲れの見える子どもたちもいましたが、夕食後のレクリエーションでは花火を楽しみ、就寝時間ぎりぎりまで話が尽きない様子でした。

最終日は、種子島中学校を訪問し、模擬授業や部活動見学を実施しました。昨年度から実施している一泊二日の本事業を、今年度は、二泊三日に延ばし、内容を充実させました。参加した子どもたちは、今回の活動を通して、それぞれに役割を全うし、多くの友だちと積極的に交流し、楽しく過ごせた様子でした。

この活動でできた仲間がいることを心強く感じ、希望をもって中学校へ入学したいと思います。

## テント張りの様子



模擬授業の様子

中種子町



風立

のまち なかたね

高齢者学級

福寿大学

高齢者の生きがいと相互の親睦・融和を図り、社会参加と心豊かな人生を過ごす場を提供することを目的とした本学級も四十年目を迎えます。

現在学級生は、二十二人で、年間十四回の学習課題に取り組んでおり、毎月一回の学習を楽しみにしています。今回は本年度の学習の一部について紹介します。

【野間小学校祭り参加】

毎年十一月、祭りに参加し、子どもたちの手作りお店屋さん、手作りの遊びで子どもたちとの触れ合いを楽しみました。そしてお昼には各クラスに入り、給食を食べながらおしゃべりも楽しみました。

【二日遠足】

五月十五日、自然に親しむことを目的に、南種子方面に遠足に出かけました。広田遺跡ミュージアムでは、地元の語り部による案内を熱心に聞いていました。



「ウミガメ放流体験」

青少年の自然体験活動の一環として、八月十二日に長浜海岸で、ウミガメ放流体験を実施しました。この事業は、地元でウミガメ放流を体験することで、自然に対する豊かな感性を育み、郷土を愛し、逞しく生きていくための精神力を養うことを目的に毎年開催しています。また、郷土出身者にも参加してもらい、郷土の自然の素晴らしさを実感してもらおうものです。

今年は一〇八人の参加がありました。まず納官小学校でウミガメ保護監視員によるウミガメの上陸状況や生態についての説明を行った後、長浜海岸に移動して、ウミガメの放流を一齐に行いました。また、郷土出身者も三十人ほど参加があり、種子島の自然を存分に満喫できた様子でした。



ウミガメ放流の様子



来年度以降も、継続して子どもたちの郷土愛の向上に努めたいと思います。

「イングリッシュ・キャンプ2016」

八月十六日から二日間、グローバル化が進む社会の中で、英会話や外国文化を学び、体験することを目的としたイングリッシュ・キャンプを三年ぶりに自然レクリエーション村（熊野海水浴場）で実施しました。

A・L・Tや在住外国人の協力ももらい、英語によるレクリエーションや外国料理の調理、文化体験をし、良い経験ができました。

今後は、さらに外国人移住者に参加を呼びかけ、規模を拡大していく予定です。

イングリッシュ・キャンプ



「なかたね読み聞かせ会」

十月、十一月に町内の幼稚園・保育所・小学校で「なかたね読み聞かせ会」を実施しました。町内の「なかたねお話パレット」の皆さんに依頼して大型絵本やブックパネルシアターによる読み聞かせなど、読書活動の普及と子どもたちの健全な成長と豊かな人間性の向上に努めてきています。

今後さらなる読書活動の充実を図っていきます。

なかたね読み聞かせ会



中種子町 連合青年団の活動

中種子町連合青年団は、現在三十人（男性二十二名、女性八名）で活動しています。

八月六日に開催された第四十八回中種子町よいらーいき祭りの道中踊りにおいて、中種子町連合青年団がアッチャメを披露しました。

アッチャメは、中種子町野間下田地域に伝承されている歌で、百五十年ほど前に下田集落に実在した「下田嘉太郎」をモデルにした歌とされています。また、アッチャメとは、沖縄方言の「アッチャメ」（即興的な踊り）が語源となっていて、「下田嘉太郎」の歌を歌いながらスピード感のある踊りが特徴です。

道中踊りで披露されたアッチャメには、たくさんのお客が詰めかけ、詰めかけた観客からは、拍手や歓声が響くなど、歌と踊りを大いに楽しみ盛り上がりを見せました。

青年団長は、「今後も皆さんに、さらに楽しんでいただけるよう、精力的に活動の場を広げていき、団の活動が町を盛り上げる一助になれば幸いです。」と意気込みを語ってくれました。



連合青年団によるアッチャメ

南種子町

心ふれあうまちづくり みなみたね

種子島宇宙教室開催  
↳ 友好都市愛知県飛島村交流 ↳

南種子町では、本年度六月二日に、愛知県飛島村と「ロケットロードパーク トナーシップ宣言」を行い、友好都市となりました。

その手始めとして、子どもたちの相互交流を行うこととなり、八月二十三日から二十六日まで、町内の小学生十六人による種子島宇宙教室IN飛島村が開催され、愛知県飛島村を訪問し、体験学習と交流事業を行いました。

交流内容としては、現地の飛島学園生と合流し、三菱重工工業飛島工場見学やペットボトルロケットの打ち上げ体験が行われました。

三菱重工 飛島工場にて



ペットボトルロケット打ち上げ体験



その後行われた夕食パーティーでは、交流会参加の感想発表等もあり、最初は緊張していた子どもたちも、飛島村の交流団と打ち解けあい、会話が弾みました。

今回の交流事業では、飛行機や県外が初体験の子どももあり、普段は見ることもない高層ビルや中部国際空港の様子を見学したり、体験したりできました。

また子どもたちは、親元を離れ、しっかりと目的をもちながら、ロケットとゆかりのある飛島村を訪問し、見聞を広められた有意義な交流となりました。



飛島村交流団来町

↳ 友好都市愛知県飛島村交流 ↳

十二月二十三日から二十五日には、飛島村交流団の十人が、南種子町を訪れました。十二月二十四日には、南種子町の子どもと交流を行いました。

飛島村で既に交流した仲間なので、すぐに打ち解けることができました。広田遺跡ミュージアムでは、一緒に夜光貝アクセサリー作りを行い、宇宙センターでは記念撮影、体験バスツアーと科学館見学を、その後赤米館では、各班に分かれ、音声ガイドペンとルーTomappを使う、散策クイズを行い、さらに仲を深めることができました。その後、交流団全員と連絡先の交換を行い、今後の一層の交流を約束することができました。

友好交流事業



図書館ボランティアの紹介

↳ 南種子町立図書館 ↳

南種子町立図書館には、現在、二つ読書ボランティアサークルがあります。「南種子町おはなし子ども会」と高校生読書ボランティアグループ「どんぐり」です。

「南種子町おはなし子ども会」は、町内の母親たちによって結成されており、毎月第四土曜日に「おはなしの時間」を開催し、読み聞かせ等を実施しています。

また、要請のあった学校等には、「おはなし宅配」を実施し、町内の全ての子どもたちに「おはなしの種」を届ける活動をしています。

高校生読書ボランティアグループ「どんぐり」は、種子島中央高校生で結成されており、現在十一人で活動しています。中種子町の保育所では、「夏のおはなし会」を実施しました。また、子どもの読書週間では、町立図書館で「ライブラリーおはなし会」も計画しています。

会員は少ないですが、子どもたちの笑顔を支えに楽しみながら活動しています。

高校生読書  
ボランティアグループ  
「どんぐり」



屋久島町

さわやかあいさつのまち 屋久島町

わが家のネットルールづくり

本町では、昨年度より「情報化社会に適応した安全で健全な地域環境づくり」をめざし、携帯電話・ネット・ゲーム機等における「わが家のルールづくりと実践」に取り組んでいます。この取組は、次のような流れで始まりました。

- ①屋久島高校から町PTA連絡協議会に提案
- ②町PTA連絡協議会から町青少年育成町民会議に提言
- ③町青少年育成町民会議の決議
- ④事務局（社会教育課）から町内統一ルール（屋久島ルール）の提示
- ⑤町内小・中学校、高校の各家庭に「わが家のルール」用紙を配布
- ⑥各家庭で屋久島ルールをもとに「わが家のルール」を作成
- ⑦各家庭の見やすい場所に掲示し実践

昨年度の取組を経て、課題として「ルールをつくって実践したが、振り返りができていなかった」ということが挙げられました。そこで、本年度は、事務局が「振り返りカード」のサンプルを提示し、それをもとに各校の実態に合わせて振り返り期間を設け、各家庭でカードを使用し、実践を振り返る活動を追加しました。

今後は、各校へのアンケートをもとに、実施状況等を事務局が集約し、年度末の青少年問題協議会において、検討し、次年度の青少年育成活動に生かしていきます。

**屋久島ルール！**

- 子どもを守る責任は保護者にあることを自覚し、家庭での情報モラル教育に努める。
- 子どもたちに携帯電話やネットコミュニケーションツール等を利用させるルールを作る。
- ネット環境機器を利用する時間は、夜9時までに行いません。（携帯電話等は保護者に預けます。）

**わが家のルール！**

●テレビは、きめたものだけ見る。

●パソコンをする前には、おうちの人に言い

屋久島町統一ルール

屋久島ルールをもとにした「わが家のルール」

関心をもつことが大切 屋久島町人権教育研修会

平成二十八年八月十八日（木）、屋久島町総合センターにおいて、町人権教育研修会を開催しました。講師に北朝鮮拉致被害者家族連絡会の市川健一さん、龍子さんご御夫妻をお招きし、「家族の絆」について御講演いただきました。



超満員の会場



講師の市川さん御夫妻

健一さんの弟さんであり、北朝鮮拉致被害者である修一さんへの思い、家族の苦難など、実体験を踏まえてお話しされ、町民の皆さんは、時折、涙を拭いながら、終始真剣な顔で聞き入っていました。御夫妻の講演から、「拉致問題を忘れられるのが一番怖い」こと、「拉致被害者の人権だけでなく、様々な人権に国民が自分のこととして関心をもち、

理解を深めていくことが大切であることを学びました。

博物館がやってきた！ 移動博物館事業

平成二十八年十一月二十三日（水）から二十七日（日）、屋久島町総合センターを中心に、「博物館がやってきた！ IN 屋久島」を十八年ぶりに開催しました。

幼児、高校生によるテーブルカットの後、来場者は、合計五千六百三十点にも及ぶ貴重な動植物等の展示物に見入りました。

期間中は、展示物だけでなく、ワークショップ、楽しい実験、さわつていいよコーナー（化石・ヘビ・イモリ）も開かれ、子どもたちに大盛況でした。

また、小学校への出前授業、自然観察会、星空観望会等も計画されていましたが、天候不良により一部変更や中止となってしまいました。期間中、延べ三千人以上の来場者は、ふだん屋久島では接する機会のない体験ができた、とても有意義な移動博物館でした。



展示会場



ヘビにさわろう